

論文内容要旨

論文題目

固定内斜視における筋移動術後の眼圧下降について

責任講座： 眼科学 講座
氏 名： 林思音

【内容要旨】

背景：固定内斜視は、強度近視眼に後天的に発症し、高度の内転障害と上転障害を伴う。強度近視により眼軸長が延長した眼球が外直筋と上直筋の間に脱臼し位置異常をきたすことが原因であり、外直筋と上直筋の筋腹を逢着して脱臼した眼球を整復する筋移動術（横山法）が行なわれている。われわれは、固定内斜視における眼圧と、横山法術後の眼圧変化について検討し、術前の眼球の位置異常との関係について検討した。

対象と方法：横山法を行なった固定内斜視症例を対象とした。術前の眼圧異常の頻度を眼球運動制限の無い水平斜視症例と比較した。また、眼球の脱臼角と眼圧異常の関連を評価した。さらに、手術前後の眼圧変化を比較検討し、眼球の脱臼角と眼圧変化の関連を評価した。

結果：固定内斜視群における眼圧異常は水平斜視群に比べ有意に多く認められた。眼圧異常は眼球脱臼角が高度の場合に多かった。横山法術後、固定内斜視群における平均眼圧は有意に下降した。しかし、非術眼および水平斜視群では術前後で有意な眼圧変化を認めなかった。術前の眼球脱臼角が大きいほど術前後の眼圧下降差は大きくなった。

結論：固定内斜視では眼圧異常を多く認められた。固定内斜視において眼圧異常が認められた場合、横山法を施行することは眼位改善だけでなく眼圧改善にも有用である。

平成27年01月22日




山形大学大学院医学系研究科長 殿

学位論文審査結果報告書

申請者氏名： 林 思 音

論文題目： 固定内斜視における筋移動術後の眼圧下降について

(Intraocular Pressure Decreases After Muscle Union Surgery for Highly Myopic Strabismus)

審査委員：主審査委員 佐藤 慎 哉 
副審査委員 藤 井 聡 
副審査委員 山下 英 治 

審査終了日：平成27年01月16日

【 論 文 審 査 結 果 要 旨 】

本論文は、過去10年間に山形大学および浜松医科大学で経験した高度近視に伴う固定内斜視症例13例23眼の筋移動術前後の眼圧の変化を検討したものである。これまでも固定内斜視患者に対して眼圧下降点眼薬が用いられることはあったが、これは単に固定内斜視に緑内障が合併したものと取り扱われ、両者の相互関係についての議論は為されていなかった。固定内斜視と眼圧上昇の関係に初めて注目したのは山形大学医学部眼科学教室で、2010年に世界で初めて一例報告を行っている。本研究は、この症例報告で得られた知見をもとに、固定内斜視と眼圧上昇、さらに筋移動術による眼圧の変化を、後方視的無作為化研究ではあるが、多数例で検証した極めて新規性の高いものである。

研究は、上記の対象症例を高度近視とは関連の無い水平斜視症例30例30眼をコントロール群として比較検討を行っている。評価項目の主なものは、眼球の偏位角、手術前後の眼圧、眼圧下降薬の使用の有無等である。その結果、高度近視に伴う固定内斜視においては、眼球と外眼筋の位置関係により眼圧が上昇すること、またその眼圧上昇は通常緑内障に対する手術を追加すること無く、固定内斜視に対する筋移動術のみで改善することを見いだした。

これらの結論は、今回の研究により新たに確認されたものである。研究に関して、倫理性の確保、統計的解析手法にも十分な配慮がなされており、特に指摘する点はなかった。

学位論文審査発表会に於いては、学位論文の内容に関係する斜視や緑内障の発生メカニズムとその治療法等についての質問もなされたが、いずれも適切に回答されており、博士として十分な能力を有するものと判断した。

以上より、申請者 林 思音氏の研究論文は、山形大学大学院医学系研究科医学専攻（博士課程）の論文としてふさわしい内容であり、また学位（医学博士）を与えるに足る能力を有するものと判定した。

(1, 200字以内)